

Glocal Tenri



2

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.12 No.2 February 2011

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
目にみえないものを見る
／深谷忠一1
- ・ 天理教教理史断章 (62)
その他の文書⑤
／安井幹夫2
- ・ 天理教海外伝道の資料 (14)
上海伝道関連史料⑭
／深川治道4
- ・ 天理異文化伝道の諸相 (77)
コンゴ伝道に見る異文化接触 [43]
／森 洋明5
- ・ 今日の時代における宗教批判の克服学 (26)
厳しい現状に直面する伝統仏教寺院 II
／金子 昭6
- ・ ハワイ人とキリスト教：文化と信仰の
民族誌学 (23)
ハワイ人とキリスト教の歴史②
／井上昭洋7
- ・ 世界平和のための宗教対話 (24)
迫害を受けるキリスト教徒
／山口英雄8
- ・ 天理スポーツ (9)
相撲と天理⑤
／難波真理9
- ・ オーストラリア通信 (3)
キャンベラにおける日本文化
／土井幸宏10
- ・ 図書紹介 (59)
『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂
のリアリティ』
／金子 昭11
- ・ English Summary12
- ・ おやさと研究所ニュース13

Mysticism without Bounds に参加・発表／平城
遷都 1300 年祭に雅楽部が参加／平成 23 年度公
開教学講座のお知らせ／第 7 回伝道フォーラム
「ネパールの天理教」案内

巻頭言

目にみえないものを見る

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

最近の宇宙を観測する技術の進歩には驚くべきものがあります。例えば、米国の NASA の研究者は、ハッブル宇宙望遠鏡で、明るさが 29 等よりはるかに暗い生まれだての銀河を見つけました。29 等という明るさは、月面で煙草の火がポーと明るくなるのを地球から観測するのに等しい明るさです。そうした微かな光をも見つけようとする天文学者などの努力の結果、我々が現在地球から観測できる範囲の宇宙には、1,000 億個の銀河があり、その各々の銀河内には、それぞれ 1,000 億個の星と 1,000 億個の惑星が存在することが分かってきました。

しかるに一方、宇宙には、どんなに精度の高い望遠鏡等でも観測できない物質やエネルギーがあることも分かってきました。しかも、その目にみえないものの総量は、宇宙内の全物質量の 96% を占めているというのです。つまり、水素や酸素など私たちが知る原子からなる物質、我々が普通に考える自然界を作っている物質（バリオン物質）は、宇宙全体の 4% を占めるにすぎず、あとは 22% がダークマター、74% がダークエネルギーといわれる目にみえない未知の形態の物質やエネルギーで満たされていることが判明したのです。

〔昨年カリフォルニア大学パークレー校の物理学者ホジャヴァ (Petr Hořava) は、暗黒物質は実は幻かもしれないという、ホジャヴァ重力理論を発表したが、この理論はまだ確立したのではない。〕

ところで、この「目にみえないものがあることがどうして分かるのか？」ということですが、それは、目にみえないものの働きを感じるによって分かる。つまり、暗黒の物質やエネルギーの働き・重力や斥力が、宇宙の広がりや星たちの分布状況に影響を及ぼしていることが観測されて分かってきたのです。

教祖は、先人の『「天理王命の姿は在るや?」と尋ねられた時にどう答えるべきか?』という問いに、「在るといえばある。無いといえばない。願う心の誠から、見える利益が神の姿やで」と答えられたと伝えられます。

神様は確かにおられるけれども、在るといのは時空の中に限定されることだから、全

能の神が限定された中に在るといのは違う。神様は目に見える物質的存在ではないのです。しかし、目に見えなくとも、その働き・守護を認識することによって、その実在を信じることができるようになる。そして、その働き・守護を見せて頂くためには、先ず人間の方から見る努力をすることが不可欠なのです。

そして同時に、神様の働きをよく感じられるように、我々の心を磨いておくことも大切です。空に暗雲があれば星を見ることができないように、心に曇りがあっては神の姿を見る妨げになります。宇宙の彼方からの 29 等の光でも、望遠鏡の精度を高めれば観測できるように、自分の心のレンズを磨いておけば、いわゆる不治の病からの奇跡的な霊救などを経験しなくても、日常の守護の中に目にみえない神の存在を感じることができるのです。

現代人の多くが信奉する科学的思考は、先ずものを疑うことから始まりますから、心に雑念の雲を広げがちであります。先人は「智者・学者は後回し」と言っていますが、生半可な学問・知識があると、理屈で説明のつく見える世界にのみ心が囚われて、目にみえない存在を素直に認められなくなるのです。例えば、信仰のない宗教学者などという奇妙な学者ができたりするのも、その典型でありましょう。

しかるに、天文学者が宇宙の観測を究めた末に見えないものの存在が分かったように、どのような学問分野の学者・研究者でも、真にその道を究めていった人は、最後には必ず心が澄み切って、目にみえないものの存在を様々なかたちで感じるようになるのです。

宇宙探求の例で言えば、探査機「はやぶさ」との途絶した通信を再開するあらゆる手立てを講じた後、JAXA (宇宙航空研究開発機構) の研究者たちは、航空神社などの各地の神社をお参りしてまわっています。人事を尽くし切った結果、自ずと天命を待つ心になったのでありましょう。

我々も、その先に神様の存在を感じさせて頂けるように、真つ当な学術・研究の道を、ひたすら究めていきたいと思うのであります。